

# 教育福祉委員会視察報告書

報告者氏名 森 亮二 (流政会)



1 委員会名：教育福祉常任委員会

2 期間：平成26年11月10日（月）

3 視察先及び視察項目

視察先：市内小中学校（小山小学校、常盤松中学校、小中学校併設校）

視察項目：学校間格差の是正について

4 所感等

1) 市内小中学校視察（格差是正について）

平成27年春に新設される小中学校併設校建設に関する議論を通じて、議会内で議論された『既存校との施設間格差』について、更に直近の実態を把握するべく、前回1月の既存校8校に続き、市内小学校1校、中学校1校（以下参照）を訪問し、現場内を視察した上で学校長との意見交換も実施した。

加えて市議会内で大きな議論のあった平成27年4月開校予定のおおたかの森小中学校併設校建設現場を視察。予定通りの開校を実現すべく、進捗状況を確認した。

特に今回は平成17年に開通したつくばエクスプレス「流山おおたかの森駅」周辺に位置する学校群であり、人口流入に伴う生徒数の増加により、今後様々な影響を受ける学校であるということが共通点でもある。全国的に見ても、自治体の街づくりのコンセプトの一つとしてコンパクトシティ化が進む中においては、市域内の学校間でも児童数の偏重がみられる傾向が強まっている。地域に核とも言える小・中学校。『地域に開かれた学校づくり』が求められている中で、今後どのように進めていくか、議会としても現状と将来を見据えた議論が求められてくるように思う。

新線沿線のまちづくりは段階的に進むため、同地域内において「格差」が発生することは必然であることは言うまでもない。大切なことは「悪い格差」を生み出し続けるのではなく、如何に「よい（許容できる）格差」にしていくかの取り組みを行うことだと思う。現場を廻る中で感じた感想は、ハード面に目が行きがちであった室内における議論であったものが、子ども達の元気（笑顔）、先生たちの情熱、そして地域と一体となった学校作りという現場ならではの雰囲気に触れるたびに、議会内で進めていく議論についても「間違えた方向性」にならないように努めていく責任を感じた。

■小山小学校…児童増により特別教室を普通教室にしている現状には課題を感じた。今後、校舎の増築により一時的に回避されるところだが、また数年後には今の状態に近くなるという。柔軟に的確に対応していく必要性を感じる。

■常盤松中学校…今年度に設置したクーラー、5年前に設置したトイレなどを確認。校舎自体は古い面があるが、生徒達にとっては過ごしやすい環境にあると感じた。

■おおたかの森小中学校併設校…工事の順調な進捗を確認することができた。

# 視 察 報 告 書

報告者氏名 西川 誠之



1 委員会名  
教育福祉委員会

2 期間  
平成26年11月10日(月)

3 視察先及び視察項目  
視察先：市内小中学校  
(小山小学校、常盤松中学校、小中学校併設校)  
視察項目：学校間格差の是正について

4 所感等

本年1月20日・21日の3中学校と5小学校の視察に続く、小中学校各1校プラス来年4月開校予定で建設中の小中学校併設校の工事進展具合を視察した。

小山小学校 杉浦校長 雨宮教頭

まず最初に現存の小中学校の中で一番新しい平成21年竣工(校舎新設移転)の小山小学校の視察。まだ建物も新しく斬新なデザインとOPEN教室方式(柱も壁もできるだけ少なく見渡せる)など他校と比較するのは難しいが、急激な生徒増に対応できず…一説には中長期的視野での生徒児童増の俯瞰が不十分であった…平成25年3月にプレハブ式の新校舎を増築するも、特別教室などを未だ普通教室に充当しており、従来の計画通りの授業運営が出来ていない。新設のおおたかの森小学校がスタートすれば、これらの問題は解決し?特別教室などが本来の目的通りの使用ができるようになるという事だった。当日は、教育実習(各担任が自教室を自習にして同僚の授業を参観する、他校からも数名来ていたようだ)があったため、各クラスの児童たちの自習の様子がよく分かった。低学年に行くほど統率取れずに騒がしい自習になっているかと予想していたが、思ったよりもおとなしく与えられた課業を順序良く片付け、高学年では一部終業前に「読書」に達した児童もみられた。

各教室でも児童の机の方向が教壇(先生の机のある方向)に正対、横左(窓方向)向き、横対面方式等、先生の方角に正対していない授業と言うのは経験上疑問点が多く、スペースと児童数の関係でそうなったのかは確認できなかった。た

だ先生の趣味趣向で教室運営上そのようにしているとは考えられず、いまだ？付である。また児童生徒の数が教室ギリギリと言う感じを受けた。来年新設校の誕生でこの辺は解決できるのだろうか？確かに普通教室と特殊教室では広さに差があり、一概には決めつけられない処です。

杉浦校長先生の案内で校内巡回したが、踊場・手洗い所に設置されていた「ヒラメの養殖」には驚いた。まさかここでプラスチック製の桶の中での養殖がおこなわれているとはと想定外といった感想である。

同敷地内にある児童センター・学童ルームや十太夫福祉会館なども混在しており、すみわけが順調に行っているかどうか今後検証したい。

### 常盤松中学校 鈴木校長・宮本教頭

到着と同時に先ず元気の良い（挨拶励行）学校と言う印象を受けた。文体活動が盛んで、中学女子バスケ部が葛北新人大会で最後の6秒で59：58と逆転勝利、流山市31年ぶり2度目の優勝で県大会出場決定、男子は3位。吹奏楽部が金賞受賞と大奮闘と案内された。玄関にはそれらの賞状が誇らしげに飾られるとともに、入り口正面のTVでも各部・学年の活躍スナップは常時上映されており、活気に結びついている印象を受けた。階段の踊り場に掲示されていた壁新聞に、体育祭への決意表明ではないかとおもわれることが掛かれており、4組（赤白黄緑？）の全員写真と共に「がしんしょうたん臥薪嘗胆」をもじって「がしんしょうたん我進勝誕」と書かれていたのがなんだか良く判らなかつたが印象的だった。

宮本教頭は以前教育委員会指導課指導主事として顔見知りでもあり、久しぶりの接触で丁寧な解説をしてもらえた。本校も併設校の誕生により学区編成替えも予定されており、特に運動部などの部活において仲間との別れについてご心配のご父兄もいると聞いていた議員もいたが、10月18日に行われた第68回東葛飾地方中学校駅伝競走大会において順位は43位と前年を下回ったが、3年生x6人、1年生x4人、補欠5人が全力疾走で頑張り、それを応援していた仲間の生徒も感動し、教育効果が高まるのと同時に、1年生が「常中生として最初で最後の東葛駅伝。来年はおおたかの森中学で自分がチームをまとめて引っ張ってゆきたい」と感想文を書いてくれたことを教頭から披露され、心配が吹き飛んだの

ではないか？大人が思うよりも子どもの方が先見性と強したかさを感じた。表通りに面していない学校でなかなか解りにくくはあるが、施設その他については大きな問題はないように感じた。ただ体育館のバスケットボードは、折角優勝獲得のチームにはふさわしくない塗料剥げを来年度予算で塗り直しと森委員長から指摘（要望）されていたようだ。

## おおたかの森小中学校併設校工事現場 教育総務課 武田課長他

思っていたよりも大きく感じたのは自分だけではないと思うが、建設中の建物を建設工材が十重二十重と囲んでいるので余計大きく感じたようだ。デザインに凝ってとCPについての評判は良くなかったアール部分（局面）が、建設中の内部を見るとそれなりの存在観（感）が出ており、納得できそうな感じがした。

二つの体育館が一番印象強く感じた。1・2階で一つ、3・4階で一つが同じ地点に建てられており、その広さ、高さと共に天井などの建築資材の重厚さ（重さと厚さ）に納得。特に下の柱の少ない体育館ではその天井の部分で上の体育館の重さを安全確実に支えられる設計・建築の点での検討が大変だったと聞いた。

他の部分はまだ個々の様子が見れるほど工事は進んでおらず安全でないという観点から個々の視察は程ほどで、改めて建設事務所で見せていただいた模型でその大きさを再確認。「風のとおり道」や周辺の景観とどこまで運動場になるのか、隣の森との関係はどうなるか等、完成時の見学の見学が増えた。

現在平均で350人の工事関係者が働いており、今後は夜間作業も増やして（現在が午前8時半から午後6時まで⇒午後8時まで）2月完成を目指している。比較的大きな建築中の物件を見学できること…それも内部の導線が色々入り練りなおかつ上下の段差の多いところでの見学…で怪我もなく、無事終えたことでほっとしています。

工事の順調でなおかつ安全な進行を願っています。

以上

☆教育福祉委員会

☆平成 26 年 11 月 10 日 (月)

☆市内小中学校の学校間格差の是正について

(小山小学校・常盤松中学校・小中学校併設校)

☆市内小中学校の視察訪問は、今の教育福祉委員会のメンバーでは 2 度目になります。前回の視察報告書にも書きましたが、市民から負託されている議員にとって、この市内小中学校の視察訪問は、とても大事な視察だと思います。

普通の一保護者は、自分の子どもが通う学校しか見る機会がほとんどありません。なので、まさか、流山市内の公立学校の施設にこんなに差があるとは、ほとんどの保護者は知らないでしょう。

だからこそ、議員が市内中の保護者に代わって、子ども達の成長の場となる小学校・中学校を視察訪問することは、とても大事なことだと思います。

今回は、建設途中ではありますが、来年度開校予定のおおたかの森小中学校併設校と、その地域にある小山小学校、常盤松中学校を視察訪問してきました。

小山小学校は、流山市内唯一のオープン教室がある小学校です。

(さすがに、1 年生の教室はオープン教室ではなく、壁のある一般的な教室ですが。)

去年、日本共産党市議団で小山小学校を訪問した時は、既存の小学校とのあまりの違いに、物凄い衝撃を受けました。

廊下なんだか教室なんだかロビーなんだかわからないオープン教室、廊下もゆったりとした空間があって、教室の中には水道があるので手もすぐ洗える、お洒落な打ちっぱなしの壁、いろいろなイベントができそうな中庭の大階段、暗くなると下からライトアップされる緑、もちろんトイレも洋式、音楽ホールとして市民にも貸し出している音楽室、開放感たっぷりの図書室、何もかもが既存校とは違いすぎて、愕然としました。

今回は 2 度目の訪問だったので、去年のような衝撃は受けませんでした。が、また新たな衝撃が…。

児童数の増加でパンク、なんて話は聞いていましたが、理科室、被服室、音楽室までもが子ども達の普通教室となっていました。

広々とした音楽ホールで、子ども達は机を並べて授業を受けていました。

この光景を見て、違和感があったのは私だけではなかったはず。です。

小山小学校は、児童数の増加で、校庭に校舎をつくる増築計画も出ていますが、犠牲になるのは大人ではなく子ども達です。

オープン教室を導入してみてどうだったのか、流山市は総括もしていない状況ですし、目新しいものにパッと飛びついて、結果、小山小はこんな事態になってしまいました。

子ども達にとって、義務教育の時期は、人間形成、人格形成にとって、とても重要な大事な時期です。

子ども達の大事な成長の場をしっかりと確保するのも市の責務です。

これ以上、子ども達を犠牲にしないでほしい、そう強く思います。

次に、常盤松中学校を視察訪問しました。

ここは教室と廊下の区別が明確な、従来型の学校です。

どの委員も「やっぱり、ホッとするね。」と話していました。

驚いたのはトイレです。

各階のトイレのつくりが全部違っていました。

どの階のトイレも、デパートやショッピングモールにあるトイレのように洗練された作りとなっていました。

6~7人が一度に映る長い鏡は、身だしなみが気になってくる、この年代の女子にとってはとても嬉しい作りです。

こういうトイレを見るたびに、同じ市内の公立の学校なのに、なぜ、江戸川台小学校のトイレだけ和式のまま、昔の作りのままなのかと落ち込みます。

公立なんですから、市内小中学校のトイレくらい平等に作ってほしい。

「母になるなら流山市。」「学ぶ子にこたえる流山市。」というキャッチフレーズを掲げている流山市なんですから、嘘偽りなく、このとおりに子ども達、保護者の願いに応えるべきです。

常盤松中学校の生徒達には「よかったね。」江戸川台小学校の子ども達には、「ごめんね。」という思いを引きずりながら、おたかの森小中学校併設校の建設現場に向かいました。建設現場を見た方は、誰もが思うと思いますが、あれは、公立の学校の域を越えています。夏頃に、車を走らせながら、通りから見た時には、ジェットコースターでも作る気か？と思いました。

今回の視察で、だいぶ工事が進んでいたのもうジェットコースターとは思いませんでしたが、それでもショッピングモールでもできるのかしら？と、知らない人が見たら思うでしょう。

学校建設には賛成ですが、こんな大規模な学校でいいのか…。

子ども達の教育の面についても、流山市の財政面からみても、これからどういった影響が出てくるのか…。

子ども達の成長過程における影響は、どういったものが出てくるのか…。

私は専門家ではないのでよくわかりませんが、親の立場からすると、直感で、手放しで喜ぶ、とはならないです。

新しいし、綺麗だし、見た目もいいんでしょうが、(本当に、自分の子どもをこんな大規模校に行かせて大丈夫?)という感覚になります。

現時点で、一番新しい小山小学校、従来の作りの常盤松中学校、そして建設中のおたかの森小中学校併設校を駆け足で視察してきましたが、流山市は、本当に子ども達のことを考えているのか、はっきり言って疑問です。

流山市自ら、子ども達に格差を植え付けているんじゃないか、という思いが残った視察でした。

## 視察報告書

教育福祉委員会

公明党 齊藤真理



視察日程：平成26年11月10日（月）

視察項目：市内小中学校における施設の格差是正のための視察

視察場所：小山小学校、常盤松中学校、小中併設校建設現場

### 所感

#### 1、 小山小学校

平成21年4月の開校から早、5年が経過した。開校当時は、広々とした開放的なデザインで、大変評判となった。それは、市民誘致につながり、人口は急増。それに比例して児童生徒数もみるみる膨張し、わずか5年で、ゆとりの校舎はたちまち手狭となってしまった。

学校側でも、ランチルームを音楽室に、被服室を普通教室にと、様々な工夫をしながら、生徒数の急増に対応してきた。来年4月に、小中併設校が開校されることで、今の小学1年生～5年生のうち、402名が新設校に移動し、更に4階建ての新校舎を建設することで、なんとか、教室数の不足も落ち着くとのこと。

ただ、今後の生徒数の増加は予測が難しい面もあり、年度ごとに対応していくことになる。

ただ、校舎内を視察するかぎり、他校に比べて窮屈な感じを受けなかったのは、やはり「教室」と「廊下」といった、しきりの無い、オープンな作りの為かもしれない。

生徒たちはちょうど自習中だったが、すぐ横を私たちがぞろぞろ歩いても、一瞬目を向け、こんにちわ、と挨拶してくれるが、その後すぐに、課題に集中する。実際に視察するまで、このようなオープンな構造という環境は、こどもにとって、落ち着かないのではないかと思っていたので、これは、驚きだった。同行の鈴木学校教育部長に伺うと、「不思議ですが、子どもたちは、すっかりなじんでいて、きちんと集中しますね。」とのこと。

来年4月から、校区変更に伴い、クラスメイトが離れ離れになってしまう事な

ど、お互い新しい環境の中での不安もあると思うが、元気に頑張ってもらいたい。

## 2、 常盤松中学校

今年度に、熱中症対策として市内全中学校に設置されたエアコンも、同時に視察させていただいた。「猛暑でも勉強に集中できるようになった」と、概ね評判も良いとのこと。

常盤松中学校も、新設校開校に伴い、移動する生徒がいる。部活動など、今後不安を持っていないか、校長先生にお聞きしたところ、不安は、全くないわけではないが、それぞれに、理解し、希望を持って頑張る気持ちでいるようだ、とのこと。

学校としては、「挨拶が弱い」と先生がおっしゃっていたが、生徒さんは、皆さん私たちに元気な挨拶をしてくれていました。

## 3、 小中併設校 工事現場にて、進捗状況を視察

まだ、足場が張り巡らされた状態での視察。はたして、開校に間に合うのか、と心配になり確認したところ、建物については、1月中には完成予定とのこと。

現場についての第一印象は、とにかく大きいこと。小学校2校と中学校1校、合計3校分となること、更に、おおたかの森センターや、子どもに特化した図書館などが併設される、いわゆる複合施設であることから、やはりこの大きさになるのだろうか。

工事に遅れが生じており、夜8時頃まで工事することになるとのこと。必ずまにあわせなければ困るのだが、くれぐれも無事故でお願いしたいと要望した。

小中併設校に隣接予定のおおたかの森センターや、子どもに特化した図書館などと共に、流山市民に親しまれる施設になるよう願っている。



# 視 察 報 告 書

報告者氏名

阿部 治正



1 委員会名

教育福祉委員会

2 期 日

平成 2 6 年 1 1 月 1 0 日 (月)

3 視察地及び調査事項

(1) 市内小中学校

1 1 月 1 0 日 : (小山小学校、常盤松中学校

建設中のおおたかの森小中併設校現場)

4 所感等 来年春に予定されている小中併設校の開校にともなうて、既存の小中学校との間に学校施設・設備の面での格差が生じてしまうことが懸念されています。今回の視察は、前回の1月20日～21日の視察に続き、この学校間格差問題についての現状確認を行うための視察でした。

視察を行ったのは小学校が小山小学校、中学校は常盤松中学校、そして現在建設中のおおたかの森小中併設校の現場でした。

視察の順序は入れ替わりますが、まず、常盤松中学校を視察した感想。普通教室と管理室が入った棟は1977年に、特別教室と旧書屋配膳室が入った棟は1982年の落成で、それぞれ37年、32年の歴史を持つ校舎で生徒たちは学んでいます。校舎自体は中堅どころという感じで、各所で設備の入れ替えや補修は必要となっていますが、立て替えはまだ先の校舎です。

議員からは、新設校に移る子どもたちの部活への配慮はどうなっているか、新設校で出来る部活は限られており子どもたちに戸惑いはないか

などの質問が行われました。校長は、どのような部活動を用意するかは教育委員会が決める、どの中学校にもあるような部活は用意するが特別な部活は難しいだろう、しかし子どもたちの動揺はないと信じている、とのことでした。この問題については、さらに子どもたち自身、そして保護者の意見を直に聞いてみる必要を感じました。

次に小山小学校を視察しての感想。小山小学校からは、現在の生徒数1000人弱の内、おおたかの森小学校へ400名ほど、中学校へは60人ほど、20人くらいが私立中学校へ進学するとのことでした。平成28年頃には、元の生徒数に戻るだろうとのことでした。

ここでも、議員から、高学年生徒の部活は新設校への移行でどうなるのかとの質問が出されました。学校側の答えは、部活上での悩みは中学生から出てくると想定している、陸上や音楽をどうするかが課題だとの返答がありました。

また、議員からは、小山小学校は低層階でエアコンはなくても大丈夫だと言うことだったが、現実にはどうかとの質問が行われました。学校からは、夏はやはり暑い、場所と教室によって違うが特別教室は暑いとの答えがありました。また生徒数が増えることに夜間問題点についての議員に質問に対しては、学年のクラス数が多くなると集団行動が難しくなる、全校集会などが窮屈になる、生徒1人当たりの教職員数は今のところ問題は生じていない、との返答がありました。

次に、おおたかの森小中併設校の建設現場の視察の印象です。足場などで隠されてまだ全容はうかがえませんが、まずその建築物の偉容に圧倒されました。広い敷地に、大きな校舎、しかもその校舎が、一見学校施設とは思えない流麗なデザインです。建築中の現場の中に入るとつれて、その印象は強まりました。吹き抜けの2つの大きな中庭、2つの階にわたる広い体育館、基本的にはセパレートされた大きな2つの構造物、その空間の中がまた数個にゾーニングされて各種の機能が配置されています。140億円もの事業費がかかるのもむべなるかな、というのが率直な感想です。

問題は、こうした建築物が学校の校舎としてふさわしいのかどうか。教育施策としてこうしたハコモノに巨費を投ずることが適切なのかどう

か。今の時代に新しい校舎を建設しようとするればデザインも新しくなり設備なども新鋭のものが設置されることになるのは当然だが、しかし学校施設として適切か、20 数校の他の既存校とのバランスはどう考えているのか、大きな疑問が湧いてこざるを得ない新設校建設現場の光景でした。

つくばエクスプレスのおおたかの森駅の周辺は、子育て世代の人口が市の予測を超えて増えており、新しい学校を建設すること自体は必要なことです。しかし、それが教育施策の中で行われる以上は、子どもと保護者たちの中において同じ流山市民としての公平性や平等についての疑問や疑念が生じるような施策であってはならないはずです。この点で、おおたかの森小中併設校計画は、大きな問題点を胎まざるを得ないというのが率直な意見です。

せめて、校舎のデザインなどは、ショッピングモールか巨大遊技場の姿を思わせる華美なデザインではなく、もっと実質を重視したシンプルなデザインでも良いのではないかと、むしろその方が新しい時代の学校建設にはふさわしいのではないかともしました。

この建築物は、将来、生徒数が減り始めた時には、一体どういう利用方法があり得るだろうか。市はその時のことまでも見通した上で、この学校の建設計画をよしとしたのか、大きな疑問が生じてくるのを禁じ得ませんでした。

# 視 察 報 告 書

報告者氏名 中 川 弘



## 1. 委員会名

教育福祉常任委員会

## 2. 期 間

平成 26 年 11 月 10 日(月)

## 3. 視察と市等及び視察項目

(1) 小中併設校と既存校との施設格差について

ア. 小山小学校

イ. 常盤松中学校

ウ. おおたかの森小中併設校 (建設現場)

## 4. 所感等

(1) 小中併設校と既存校との施設格差について

ア. 小山小学校

本来、各学年 3 クラス合計 18 クラスで計画された当該小学校であるがおおたかの森駅周辺の人口急増に伴い特別学級の普通教室転用、プレハブによる仮設校舎の建設が行われている。本来の広々とした教室と狭隘な仮設教室においても明らかに教育環境に差が生じている実態を目の当たりにした。

イ. 常盤松中学校

多くの生徒が併設校の完成に伴い併設校に移る事から、クラブ活動の継続などで問題が生じる可能性があり、きめ細かな子供たちへのフォローが必要と考えられる。

ウ. おおたかの森小中併設校 (建設現場)

費用の掛かっている建物で有る事が素人目に見てもすぐに判断できる状態であった。何故、この様な豪華な設計が議会のチェックが働かない問題を改めて痛感させられた。